



第8回 「Claude Code 101」
Anthropic 公式 Claude Academy

Claude Code

CLAUDE.md というファイル

公式の教材を、順番に

原石工房

隠れた才能に気づき、花開く

この資料について



原石工房

Anthropic とは関係のない、非公式の資料です

公式の学習サイト Claude Academy の日本語訳です

原文（英語）Claude Code 101 / The CLAUDE.md file

原文の流れと節の並びをそのままに、要点を落とさず日本語にしています

全51回の、今日はここ



原石工房

Claude Code 101

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

第1回～第12回

Claude Code in Action

13 14 15 16 17 18 19 20 21

第13回～第21回

スキル

22 23 24 25 26 27

第22回～第27回

手分け (subagents)

28 29 30 31

第28回～第31回

MCP 入門

32 33 34 35 36 37 38 39 40

第32回～第40回

MCP 応用

41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51

第41回～第51回

今日はここ 第8回

今日のレッスン



原石工房

Claude Code 101 の8つめ

原題 The CLAUDE.md file

訳 CLAUDE.md というファイル

4つの節と、最後にまとめがあります

このレッスンの流れ



原石工房

教材の並びどおり。この番号が、このあとの見出しに出てきます

① これが片づけてくれること

② 書き方の例

③ みんなのためのもの

④ 使いはじめのコツ

① これが片づけてくれること

原題 The Problem It Solves

CLAUDE.md が無いと

プログラム一式を、探し直す

何と何がつながっているか、確かめ直す

毎回、まっさらな状態から始まる

CLAUDE.md があると

Claude が自動で読む

こちらの頼みごとに、付け足してくれる

そのプロジェクトの事情を、もう知っている

プログラム一式の、新人向けの手引き

CLAUDE.md が無いと、Claude Code は毎回まっさらな状態から始まります

そのたびに、プログラム一式を探し直すことになります

CLAUDE.md は、いちばん上のフォルダに置く、ふつうの文書ファイルです

① CLAUDE.md に、何が積まれていくか



原石工房

CLAUDE.md に、何が積まれていくか

毎回、こちらが説明していたこと

この道具で作っています

動かすときはこの命令です

字下げはスペース2つです



CLAUDE.md (書いておく)

何で作っているか

よく使う命令

書き方と置き場所の決まり

次からは、Claude が自動で読む。もう説明しなくていい

二度言わなくてよくなる、という一点に尽きる

① 新人向けの手引き



原石工房

CLAUDE.md が無いと

プログラム一式を、探し直す

何と何がつながっているか、確かめ直す

毎回、まっさらな状態から始まる

CLAUDE.md があると

Claude が自動で読む

こちらの頼みごとに、付け足してくれる

そのプロジェクトの事情を、もう知っている

Claude Code が自動で読み、こちらの頼みごとに付け足してくれます

教材はこれを「プログラム一式の、新人向けの手引き」と呼んでいました

※ プログラム一式＝そのプロジェクトのプログラム全体

プログラム一式の、新人向けの手引き

② 書き方の例

原題 An Example

そのプロジェクトで、毎回説明していることを書く

何で作っているか

使っている道具の名前と、その組み合わせ

よく使う命令

動かす・ためす・書き方を確かめる

書き方の決まり

字下げの幅、名前の付け方

置き場所の決まり

このファイルは、どこに置くか

何で作っているか 使っている道具
の名前と、その組み合わせ

よく使う命令 動かす・ためす・書
き方を確かめる

書き方の決まりと、置き場所の決ま
り 字下げの幅、名前の付け方、ど
こに置くか

毎回同じ説明をしているなら、それが書くこと

① ② ここで出てきた言葉



原石工房

まず2つ

プログラム一式

そのプロジェクトのプログラム全体

いちばん上のフォルダ

そのプロジェクトの大元のフォルダ

③ みんなのためのもの



原石工房

原題 CLAUDE.md is for Teams

置き場所が2つある

プロジェクトの分

いちばん上のフォルダ

チーム全員で、同じものを使う

自分の分

設定のフォルダ

自分だけのもの。どのプロジェクトにも効く

変更の記録 (git) に入れて、みんなで持つ

変更の記録 (git) に入れて、みんなで持ちます

プロジェクトの分 いちばん上のフォルダに置く。チーム全員で同じものを使う

自分の分 設定のフォルダに置く。自分だけのもので、どのプロジェクトにも効く

チームの分と、自分の分は別にできる

④ 使いはじめのコツ



原石工房

原題 Tips

使いはじめのコツが、3つ

同じ注意を何度もしているなら

「覚えておいて」と、はっきり頼む

「@」でファイルの場所を指す

たとえば @README.md と書く

始めから作り込まない

困ったところが出てから「/init」で作る

同じ注意を何度もしているなら、「覚えておいて」とはっきり頼みます

「@」を使うと、ファイルの場所を指し示せます (例：@README.md)

始めから作り込まなくていい。困ったところが出てきたときに「/init」と打つと、その場で作ってくれます

空っぽから始めて、困ったら足していく

③ ④ ここで出てきた言葉



原石工房

2つ

git

変更の履歴を残しておく仕組み
(第7回)

/init

いまのプロジェクトを見て、
CLAUDE.md を作ってくれる命
令



原題 Recap

CLAUDE.md が無いと

プログラム一式を、探し直す

何と何がつながっているか、確かめ直す

毎回、まっさらな状態から始まる

CLAUDE.md があると

Claude が自動で読む

こちらの頼みごとに、付け足してくれる

そのプロジェクトの事情を、もう知っている

プログラム一式の、新人向けの手引き

うまくいかない Claude Code と、
はかどる Claude Code の違いは、
たいてい「渡してある情報」で決ま
る

だから、何で作っているか・どんな
決まりがあるか・よく使う命令を書
いて、積み上げていきます

今回のまとめ



原石工房

この回で押さえるところ

- ・ CLAUDE.md が無いと、毎回まっさらから始まる
- ・ いちばん上のフォルダに置くと、Claude が自動で読む
- ・ 書くのは、毎回説明していること
- ・ チームの分と、自分の分がある
- ・ 空っぽから始めて、困ったら「/init」で作る

次回



原石工房

Claude Code 101 の9つめ

原題 Subagents

訳 サブ・エージェント

全51回の、9回目です

あなたなら、何を書き残しておきますか



原石工房

隠れた才能に気づき、花開く